終身賃貸事業の用に供する賃貸住宅に係る加齢対応構造等のチェックリスト 【高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則第38条本文に規定する基準】

1. 申請事業の内容

※記載例

■ 新築 □ ♥ 改修

> があります。この判断は登録時に登録主体によって行われますので、ご留意ください。

2. /	□のある欄は、該当するものを ■に置き換えてください				□を■に置き換えてください 自由欄はなるべく具体的に記述してください				添付資料の 対応箇所等						
住宅の規模、構造及び設備に関する基準			対応の状況				計画数値・対処の状況補足説明等				資料番号・ 該当ページ				
Αı	高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則第38条第1号	から	第8号ま	でに	規定す	する	基準】								
— J	■ 適合 □ 非適合			B(高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則第38条第9号に規定する基準)の1(1)、2(1)、2(3)記載参照											
= n	節下の幅							※複数ある場合は最も厳しい状況を記入							
	主たる廊下の幅は、78cm以上 (柱の存する部分にあっては、75cm以上)	-	適合 →				非適合 →	廊丁	の有効幅員			180	cm		
Ξ ŀ	出入口の幅										※内法	寸法を証	記載する	ځ=	
	主たる居室の出入口の幅は75cm以上		適合 →				非適合 →	主 <i>t</i> :	-る居室の出入	口の幅		110	cm		共用食堂
	浴室の出入口の幅は60cm以上	•	適合 →				非適合 →	浴室	室の出入口の幅	i		75	cm		2F浴室2
四;	谷室														
	浴室の短辺は130cm以上 (一戸建ての住宅以外の住宅の用途に供する建築物内の住宅の浴室にあっては、120cm以上)		□ 一戸建て■ 一戸建て以外■ 適合 →□ 非適合 →			建て以外	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入 浴室の短辺 200 cm ※内法寸法を記載すること			、 2F浴室2					
	面積は2㎡以上 (一戸建ての住宅以外の住宅の用途に供する建築物内の住 宅の浴室にあっては、1.8㎡以上)		ー戸建て 適合 → 非適合			一戸	建て以外	浴室	室の面積	※複数		4.00	しい状況 m ² 記載する。		2F浴室2
	主戸内の階段の各部の寸法は、次の各式に適合するもの あること。	■ 住戸内に階段はなく該当しない													
	T≧19.5(T:踏面の寸法[cm])	□適合					非適合	ー - Bの1(3)記載参照							
	R÷T≦22÷21(R:けあげの寸法[cm])	□適合			□ 適合		非適合								
	55≦T+2R≦65	□ 適合			□ 非適合										
	主たる共用の階段の各部の寸法は、次の各式に適合する)であること。	□ 主たる共用の階段はなく該当しない			(該当しない	住戸エレ	『階の ・ベーター利用								
	T≧24(T:踏面の寸法[cm])	•	適合 →				非適合 →		あり、、	踏面の けあげる			26 18.3		
	55≦T+2R≦65 (R:けあげの寸法[cm])		適合 →				非適合 →		なし	(踏面)+	-(けあげ)×2=	63	cm	
七月	七 以下には手すりを設けること														
	便所		■ 適合		非適合			_ _ _ 住戸内についてはBの1(4)記載参照							
	浴室	•	適合		非適位	合					/m				
	住戸内の階段	•	適合		非適1	合	□ 該当部位なし								
	皆数が三以上である共同住宅の用途に供する建築物に 原則として当該建築物の出入口のある際に停止する		該当しな	い	_	_		Pπ)2(3)記載券昭						
は、原則として当該建築物の出入口のある階に停止する エレベーターを設置すること。			■ 適合 □ 非適合			رەد	Bの2(3)記載参照								

住宅の規	莫、構造及び設備に関する基準	対応の状況	計画数値・対処の	資料番号・ 該当ページ	
B【高齢者	がの居住の安定確保に関する法律施行規則第38条第9号	に規定する基準】			
1 住宅の	専用部分(各住戸内)に係る基準				
	イ 日常生活空間(高齢者の利用を想定する一の主たる玄関、便所、浴室、脱衣室、洗面所、寝室(以下「特定寝室」という。)、食事室及び特定寝室の存する階(接地階(地上階のうち最も低い位置に存する階をいう。以下同じ。)を除く。)にあるバルコニー、特定寝室の存する階にあるすべての居室並びにこれらを結ぶ一の主たる経路をいう。以下同じ。)内の床が、段差のない構造(5mm以下の段差が生じるものを含む。以下同じ。)であること。ただし、次に掲げるものにあっては、この限りでない。	■ 基準範囲内で適合 → □ 基準範囲を超え非適合 →	≪①~⑥を除く日常生活空間の■ 5mm高を超える段差が生じ≪①~⑥に該当する日常生活至■ ①~⑥に該当なし□ ①~⑥に該当あるが下記の□ ①~⑥に該当あり下記のと		
	① 玄関の出入口の段差で、くつずりと玄関外側の	■該当部位なし		場合は最も厳しい状況を記入	
	高低差を20mm以下とし、かつ、くつずりと玄関土間の 高低差を5mm以下としたもの	□ 段差あるが左欄をみたし適合 →□ 段差があり左欄をみたさず非適合 →	くつずりと玄関外側の高低差 くつずりと玄関土間の高低差	mm mm	
	② 玄関の上がりかまちの段差	■ 該当部位なし □ 該当部位あり			
	③ 勝手口その他屋外に面する開口部(玄関を除く。 以下「勝手口等」という。)の出入口及び上がりかまち の段差	■ 該当部位なし □ 該当部位あり			
	④ 居室の部分の床のうち次に掲げる基準に適合するものとその他の部分の床の300mm以上450mm以下の段差		※複数ある	場合は最も厳しい状況を記入	
	a 介助用車いすの移動の妨げとならない位置 に存すること。	■ 該当部位なし	該当部位の段差	mm	
	b 面積が3㎡以上9㎡(当該居室の面積が18 ㎡以下の場合にあっては、当該面積の1/2)未 満であること。	□ 該当あり 左欄a~eをみたし適合 →	段差部位の面積	m2	
	c 当該部分の面積の合計が、当該居室の面 積の1/2未満であること。	□ 該当あり 左欄a~eをみたさず非適合 →	居室全体の面積	m2	
	d 長辺(工事を伴わない撤去等により確保できる部分の長さを含む。)が1,500mm以上であること。		段差部位長辺の長さ	mm	
	e その他の部分の床より高い位置にあること。		段差部位がその他より	□高い□低い	
(1) 段 差 ※専用住戸 内部	⑤ 浴室の出入口の段差で、20mm以下の単純段差 (立ち上がりの部分が一の段差をいう。以下同じ。)と したもの又は浴室内外の高低差を120mm以下、また ぎ高さを180mm以下とし、かつ、手すりを設置したもの	■ 該当部位なし □ 段差あるが左欄をみたし適合 → □ 段差があり左欄をみたさず非適合 →	※複数ある。 □ 単純段差 → 段差の高さ □ またぎ段差→ 浴室内外のまたぎ高さてすり設置		
	⑥ バルコニーの出入口の段差。ただし、接地階を有しない住戸にあっては、次に掲げるもの並びにバルコニーと踏み段(奥行きが300mm以上で幅が600mm以上であり、当該路外段とバルコニーの端との関係が1.000mm以上であり、当該路外段とバルコニーの端との関係が1.000mm以上であり、1000mm以上のり、1000mm以上のり、10000mm以上のり、1000mmuにのり、1000mmuにのり、1000mmuにのり、1000mmuにのり、1000mmuにのり、1000mmuにのり、10000mmuにのり、1000mmuにのりのりののりののののののののののののののののののののののののののののの	■ 住戸内にバルコニーは無く該当しない	※複数ある場合は最も厳しい状 段差の種類 □ 単純段差 手すり設置 □ 設置済み	況を記入 □ またぎ段差 □ 設置可能 □ なし	
	1,200mm以上であり、かつ、1段であるものに限る。以下同じ。)との段差及び踏み段とかまちとの段差で 180mm以下の単純段差としたものに限る。	□ 段差なし		1段 □ 2段以上	
	a 180mm(踏み段を設ける場合にあっては、 360mm)以下の単純段差としたもの	□ 段差あるが接地階を有する住戸のみ	踏み段寸法 奥行き	mm 幅 mm	
	3000000000000000000000000000000000000	□ 段差あるが左欄a~cをみたし適合 →	踏み段とバルコニー端との距離	mm	
	b 250mm以下の単純段差とし、かつ、手すりを 設置できるようにしたもの	□ 段差があり左欄a~cをみたさず非適合 →	かまちと室内床面との段差	mm	
	改造 くどのようにした 500		かまちとバルコニーとの段差	mm	
	c 屋内側及び屋外側の高さが180mm以下のまたぎ段差(踏み段を設ける場合にあっては、屋		踏み段とかまちとの段差	mm	
	内側の高さが180mm以下で屋外側の高さが360 mm以下のまたぎ段差)とし、かつ、手すりを設 置できるようにしたもの		バルコニーと踏み段との段差	mm	
	ロ 日常生活空間外の床が、段差のない構造であること。ただし、次に掲げるものにあっては、この限りでない。		《①~⑥を除く日常生活空間外		
	① 玄関の出入口の段差		■ 段差なし		
	② 玄関の上がりかまちの段差	■ 基準範囲内で適合 →	《①~⑥に該当する日常生活空	2間外の床≫	
	③ 勝手口等の出入口及び上がりかまちの段差	□ 基準範囲を超え非適合 →	■ ①~⑥に該当なし		
	④ バルコニーの出入口の段差		□ ①~⑥に該当あるが許容單		
	⑤ 浴室の出入口の段差		□ ①~⑥に該当あり許容範囲	目を超え非適合	
	⑥ 室内又は室の部分の床とその他の部分の床の 90mm以上の段差				

住宅の規	模、構造及	なび設備に関する基準	対応の状況	計画数値・対処の状況補足説明等	資料番号・ 該当ページ
(2) 通路及び 出る日の		生活空間内の通路の有効な幅員が780mm(柱等 あっては750mm)以上であること。	□ 該当部位なし■ 該当部位あり 左欄をみたし適合 →□ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入 通路の有効幅員 1000 mm 柱等の箇所の有効幅員 mm	103号室通路 部分
※専用住戸	び勝手口 出入口に 戸にあっ し、玄関 造により	生活空間内の出入口(バルコニーの出入口及等の出入口を除く。)の幅員(玄関及び浴室のついては、開き戸にあっては建具の厚み、引きては引き残しを勘案した通行上有効な幅員と及び浴室以外の出入口については、軽微な改確保できる部分の長さを含む。)が750mm(浴室にあっては600mm)以上であること。	 左欄をみたして適合 → 左欄をみたさず非適合 →	出入口の有効幅員 850 mm 浴室出入口の有効幅員 mm	103号室
	住戸内のこと。ただ	階段の各部の寸法が次の各式に適合している にし、ホームエレベーターが設置されている場合 ま、この限りではない	■ 住戸内に階段は無く該当しない □ 階段あるがホームエレベーターも設置	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入	
(3) 階 段 ※専用住戸	踏の、対の ロース はい はい はい はい はい る が ら る が ら る が ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら	配が22/21以下であり、けあげの寸法の2倍と の寸法の和が550mm以上650mm以下であり、か 計面の寸法が195mm以上であること。 込みが30mm以下であること。 に掲げる各部の寸法は、回り階段の部分にお は、踏面の狭い方の端から300mmの位置にお け法とすること。ただし、次のいずれかに該当す 計にあっては、イの規定のうち各部の寸法に関 のは適用しないものとする。	□ 階段があり左欄をみたして適合 → □ 階段あるが左欄をみたさず非適合 →	けあげの寸法 mm 踏面の寸法 mm ※(けあげ)×2+(踏面)= mm 蹴込みの寸法 mm	
内部		① 90度屈曲部分が下階の床から上3段以内で構成され、かつ、その踏面の狭い方の形状がすべて30度以上となる回り階段の部分 ② 90度屈曲部分が踊場から上3段以内で構成され、かつ、その踏面の狭い方の形状がすべて30度以上となる回り階段の部分 ③ 180度屈曲部分が4段で構成され、かつ、その踏面の狭い方の形状が下から60度、30度、30度及び60度の順となる回り階段の部分		□ 回り階段ではない □ 以下に該当しない回り階段 □ 屈曲部が左欄①に該当する回り階段 □ 屈曲部が左欄②に該当する回り階段 □ 屈曲部が左欄③に該当する回り階段	
	(ろ)項に 浴室、玄 存するも	が、次の表の(い)項に掲げる空間ごとに、 掲げる基準に適合していること。ただし、便所、 関及び脱衣室にあっては、日常生活空間内に のに限る。	■ 全空間で適合または該当しない □ 部分的に非適合あり □ 適合がない		
	階段	少なくとも片側(勾配が45度を超える場合にあっては両側)に、かつ、踏面の先端からの高さが700mmから900mmの位置に設けられていること。ただし、ホームエレベーターが設けられている場合にあっては、この限りでない。	□ 住戸内に階段はなく該当しない □ 階段あるがホームエレベーターも設置 □ 階段があり左欄をみたして適合 → □ 階段あるが左欄をみたさず非適合 □ 設置済みで適合	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入 勾配 1/ 手すりの設置 □ 片側 □ 両側 手すりの踏面からの高さ mm	-
	浴室	立ち座りのためのものが設けられていること。 浴槽出入りのためのものが設けられていること。 と。 上がりかまち部の昇降や靴の着脱のためのも のが設置できるようになっていること。	□ 左欄をみたさず非適合 □ 住戸内に浴室はなく該当しない □ 設置済みで適合 □ 左欄をみたさず非適合 □ 昇降を要する段差がなく、靴の履き替えも必要としないため該当しない □ 設置済みで適合 □ 下地処理があり適合		
		衣服の着脱のためのものが設置できるように なっていること。	□ 左欄をみたさず非適合 □ 住戸内に脱衣室はなく該当しない □ 設置済みで適合 □ 下地処理があり適合 □ 左欄をみたさず非適合		
(4)	げる空間 と。ただし 囲又は開	方止のための手すりが、次の表の(い)項に掲 ごとに、(ろ)項に掲げる基準に適合しているこ、外部の地面、床等からの高さが1m以下の範 閉できない窓その他転落のおそれのないものは、この限りでない。	■ 全空間で適合または該当しない □ 部分的に非適合あり □ 適合がない		
※専用住戸 内部	空間		□ 該当しない → (腰壁等の高さが1,100mm以上の場合を含む)	□ 住戸内にバルコニーなし □ 存在するが外部からの高さ1m以下 □ 存在するが非開閉窓など転落のおそれなし □ 腰壁等の高さが1,100mm以上の場合(高さを記入)	-
	=-	② 腰壁等の高さが300mm以上650mm未満の場合にあっては、腰壁等から800mm以上の高さに達するように設けられていること。 ③ 腰壁等の高さが300mm未満の場合にあっては、床面から1,100mm以上の高さに達するように設けられていること。	■ 該当部位あり 左欄をみたし適合 → □ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入腰壁等の高さ1100 mm手すりの腰壁等からの高さmm手すりの床面からの高さmm	
	2階 以	①窓台その他足がかりとなるおそれのある部分(以下「窓台等」という。)の高さが650mm以上800mm未満の場合にあっては、床面から800mm(3階以上の窓にあっては1,100mm)以上の高さに達するように設けられていること。	□ 該当しない → (窓台等の高さが800以上の場合を含む)	□ 存在するが外部からの高さ1m以下 □ 存在するが非開閉窓など転落のおそれなし □ 窓台等の高さが800mm以上の場合(高さを記入)	
	上の窓	②窓台等の高さが300mm以上650mm未満の場合にあっては、窓台等から800mm以上の高さに達するように設けられていること。 ③窓台等の高さが300mm未満の場合にあっては、床面から1,100mm以上の高さに達するように設けられていること。	■ 該当部位あり 左欄をみたし適合 → □ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	※複数ある場合は最も厳しい状況を記入窓台等の高さ850 mm手すりの窓台等からの高さmm2F:手すりの床面からの高さmm3F以上:手すりの床面からの高さmm	

住宅の規	模、構造及び設備に関する基準	対応の状況	計画数值·対処 <i>0</i>	資料番号・ 該当ページ	
	廊下 及び 合にあっては、床面(階段にあっては踏面の先		□ 住戸内に開放廊下・階段。 □ 存在するが外部からの高 □ 存在するが非開閉窓など	さ1m以下	
(4)	階段 ⁽ 開放 られていること。 されて いる側		□ 腰壁等の高さが800mm ※複数ある	以上の場合(高さを記入) 5場合は最も厳しい状況を記入	
手すり	に限 る)	□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 →	腰壁等の高さ	mm	
※専用住戸 内部	② 腰壁等の高さが650mm未満の場合にあっては、腰壁等から800mm以上の高さに達するように設けられていること。	□ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	手すりの腰壁等からの高さ 手すりの床面からの高さ	mm	
	ハ 転落防止のための手すりの手すり子で床面(階段に	■ 該当しない →	□ 対象となる手すり子なし		
	あっては踏面の先端)及び腰壁等又は窓台等(腰壁等 又は窓台等の高さが650mm未満の場合に限る。)からの	□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 →			
	高さが800mm以内の部分に存するものの相互の間隔が、内法寸法で110mm以下であること。	□ 該当部位あり左欄をみたさず非適合 →	該当する手すり子の間隔	mm	
(5)	日尚七年空間のこと 原記がは中海党の方式で呼ばれ	■ 住戸内に階の別はなく該当しない			
部屋の配 置	日常生活空間のうち、便所が特定寝室の存する階にあること。 ※専用住戸内部	□ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合			
	イ 日常生活空間の便所が次のいずれかに掲げる基準 に適合し、かつ、当該便所の便器が腰掛け式であるこ	■適合→	■ 腰掛け式便器を使用		
	ے <u>.</u>	□ 非適合	※以下、複数ある	る場合は最も厳しい状況を記入	
(6) 便所及び	① 長辺(軽微な改造により確保できる部分の長さを 含む。)が内法寸法で1,300mm以上であること。				
寝室		■ 左欄①をみたして適合 →□ 左欄②をみたして適合 →	長辺の内法寸法 便器と壁の距離	1500 mm 800 mm	
※専用住戸 内部	② 便器の前方又は側方について、便器と壁の距離 (ドアの開放により確保できる部分又は軽微な改造 により確保できる部分の長さを含む。)が500mm以上 であること。	□ 左欄①②をみたさず非適合 →	(関係と壁の) 起離	800 mm	
	ロ 特定寝室の面積が内法寸法で9㎡以上であること。	■ 左欄をみたして適合 →□ 左欄をみたさず非適合 →	寝室の面積(内法寸法)	10 m2	
2 住宅の		L ZIMEVITCE F FREE L			
	<u></u> 住戸から建物出入口、共用施設、他住戸その他の日常	□ 該当する共用廊下なし(長屋形式等)			
	的に利用する空間に至る少なくとも一の経路上に存する 共用廊下が、次に掲げる基準に適合していること。	■ 適合 □ 非適合			
	イ 共用廊下の床が、段差のない構造であること。	■ 5mmを超える段差なく適合 □ 5mmを超える段差があり非適合			
	ロ 共用廊下の床に高低差が生じる場合にあっては、次に掲げる基準に適合していること。	■ 共用廊下に高低差がない為該当しない□ 高低差あるが基準対応して適合□ 高低差あり基準未対応で非適合			-
				る場合は最も厳しい状況を記入	
	① 勾配が1/12以下(高低差が80mm以下の場合にあっては1/8以下)の傾斜路が設けられているか、又は、当該傾斜路及び段が併設されていること。	□ 左欄をみたして適合 →□ 左欄をみたさず非適合 →	生じた高低差 傾斜路のみで対応 傾斜路と段の併設で対応	mm (②に記述)	
			設けた傾斜路勾配	1/	
	② 段が設けられている場合にあっては、当該段が (2)イの①から④までに掲げる基準※に適合していること。	□ 適合 □ 非適合	※複数ある - -	5場合は最も厳しい状況を記入	
	① 踏面が240mm以上であり、かつ、けあげの		けあげの寸法	mm]
(1)	寸法の2倍と踏面の寸法の和が550mm以上 650mm以下であること。	□ 左欄①②をみたして適合 →	踏面の寸法	mm	
共用廊下		□ 左欄①②をみたさず非適合 →	※(けあげ)×2+(路 -	Mm mm	
	※ ② 蹴込みが30mm以下であること。(2)イ	□ 左欄②をみたして適合 → (段差が1段(単純段差)の場合)	蹴込みの寸法	mm	
	①か ③ 最上段の通路等への食い込み部分及び最 ら④ 下段の通路等への突出部分が設けられていな		最上段食い込み 口 なし	ロ あり	
	いこと。	□ 左欄③④をみたして適合 →	最下段突出部分 口 なし	ロ あり	
	④ 手すりが、少なくとも片側に、かつ、踏面の 先端からの高さが700mmから900mmの位置に設	□ 左欄3④をみたさず非適合 →	手すりの設置 □ 片側 手すりの踏面からの高さ	□ 両側 mm	
	けられていること。				
	ハ 手すりが共用廊下(次の①及び②に掲げる部分を除く。)の少なくとも片側に、かつ、床面からの高さが700mm	■ 手すりを設置して適合 → □ 手すりの設置がなく非適合	※複数ある 手すりの設置 口 片側 手すりの床面からの高さ	5場合は最も厳しい状況を記入 ■ 両側 750 mm	
	から900mmの位置に設けられていること。 				_
	① 住戸その他の室の出入口、交差する動線がある 部分その他やむを得ず手すりを設けることのできな い部分	■ 該当部位で手すり設置を回避した → □ 該当部位はなく適用していない	手すり設置を回避した具体の領	雪所 :	
	② エントランスホールその他手すりに沿って通行することが動線を著しく延長させる部分	□ 該当部位で手すり設置を回避した → ■ 該当部位はなく適用していない	手すり設置を回避した具体の箇所:		

住宅の規模	塻、構造及び設備に関する基準	対応の状況	計画数値・対処の状	資料番号・ 該当ページ	
(1)	ニ 直接外部に開放されている共用廊下(1階に存するものを除く。)にあっては、次に掲げる基準に適合していること。 ① 転落防止のための手すりが、腰壁等の高さが650mm以上1,100mm未満の場合にあっては床面から	 ■ 該当しない → □ 適合 □ 非適合 ■ 該当しない → (腰壁等の高さが1,100mm以上の場合を含む) 	※複数ある場 ■ 開放された共用廊下なし □ 存在するが1階のため適用外 □ 腰壁等の高さが1,100mm以 歴壁等の高さ		
(1) 共用廊下	1,100mm以上の高さに、腰壁等の高さが650mm未満の場合にあっては腰壁等から1,100mm以上の高さに設けられていること。	□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 → □ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	手すりの腰壁等からの高さ mm 手すりの床面からの高さ mm		
	② 転落防止のための手すりの手すり子で床面及び腰壁等(腰壁等の高さが650mm未満の場合に限る。)からの高さが800mm以内の部分に存するものの相互の間隔が、内法寸法で110mm以下であること。	□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 → □ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →	□ 対象となる手すり子なし 該当する手すり子の間隔	mm	
	次に掲げる基準に適合していること。	□ 該当する共用階段なし(平屋建て等) ■ 全適合 □ 部分適合 □ 非適合			
	イ 次の①から④まで(住戸のある階においてエレベーターを利用できる場合にあっては、③及び④)に掲げる 基準に適合していること。	□ 非適合	□ 住戸階におけるエレベーター □ 住戸階におけるエレベーター		
	① 踏面が240mm以上であり、かつ、けあげの寸法の2倍と踏面の寸法の和が550mm以上650mm以下であること。	■ エレベーター利用可であり該当しない □ 左欄①②をみたして適合 → □ 左欄①②をみたさず非適合 →	けあげの寸法 m m m m m m m m m m	m	
	② 蹴込みが30mm以下であること。		蹴込みの寸法 m	m	
	③ 最上段の通路等への食い込み部分及び最下段の通路等への突出部分が設けられていないこと。	■ 左欄③④をみたして適合 →	最上段食い込み ■ なし	□ あり	
(2) 主たる共用 の階段	④ 手すりが、少なくとも片側に、かつ、踏面の先端からの高さが700mmから900mmの位置に設けられていること。	□ 左欄③④をみたさず非適合 →	手すりの設置 ■ 片側 手すりの踏面からの高さ	□ 両側 750 mm	
	ロ 直接外部に開放されている主たる共用の階段にあっては、次に掲げる基準に適合していること。ただし、高さ 1m以下の階段の部分については、この限りでない。	■ 該当しない →	□ 開放された階段なし □ 存在するが外部からの高さ1 ■ 存在するが主として避難用		
	① 転落防止のための手すりが、腰壁等の高さが 650mm以上1,100mm未満の場合にあっては踏面の先 端から1,100mm以上の高さに、腰壁等の高さが650mm 未満の場合にあっては腰壁等から1,100mm以上の高	□ 該当しない →(腰壁等の高さが1,100mm以上の場合を含む)□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 →	□ 腰壁等の高さが1,100mm以 腰壁等の高さ 手すりの腰壁等からの高さ	上の場合(高さを記入) mm mm	
	さに設けられていること。 ② 転落防止のための手すりの手すり子で踏面の先端及び腰壁等(腰壁等の高さが650mm未満の場合に限る。)からの高さが800mm以内の部分に存するもの	□ 該当部位あり 左欄をみたさず非適合 →□ 該当しない →□ 該当部位あり 左欄をみたし適合 →	手すりの踏面先端からの高さ 対象となる手すり子なし	mm	
	の相互の間隔が、内法寸法で110mm以下であること。	日 該当印位のグ 在欄をがたとう 昇越日	該当する手すり子の間隔	mm	
	住戸が建物出入口の存する階にある場合を除き、 住戸からエレベーター又は共用の階段(1階分の移動に限る。)を利用し、建物出入口の存する階まで到達でき、…① かつ、	□ 該当部位なし(1)全住戸が出入口階(左の基準①)■ 左2~3行目をみたして適合 →□ 非適合	←以下及びイ~ハ記入なしで可■ エレベーターで出入口階に到□ 1階分の階段で出入口階に至		
	エレベーターを利用せずに住戸から建物出入口に到達できる場合を除き、住戸からエレベーターを経て建物出入口に至る少なくとも一の経路上に存するエレベーター及びエレベーターホールが、次に掲げる基準に適合していること。…②	(左の基準②)□ 該当部位なし(2)EV使わず出入口■ イ~ハをみたす経路あり適合□ 非適合	←以下及びイ〜ハ記入なしで可		
(3)	イ エレベーター及びエレベーターホールの寸法が、次 に掲げる基準に適合していること。	■ 適合 □ 非適合			
ター	① エレベーターの出入口の有効な幅員が800mm以上であること。	■ 左欄をみたして適合 →□ 左欄をみたさず非適合	エレベーター出入口の有効幅員	1000 mm	
	② エレベーターホールに一辺を1,500mmとする正方形の空間を確保できるものであること。	■ 左欄をみたして適合 →□ 左欄をみたさず非適合	確保できる正方形の一辺の長さ	1800 mm	
	ロ 建物出入口からエレベーターホールまでの経路上の 床が、段差のない構造であること。	■ 5mmを超える段差なく適合 □ 5mmを超える段差があり非適合			

	住宅の規模、構造及び設備に関する基準		対応の状況	計画数値・対処の状況補足説明等			資料番号・ 該当ページ
			■ 高低差がなく該当しない				
1		とエレベーターホールに高低差が生じる、次に掲げる基準に適合していること。	□ 高低差あるが基準対応して適合				
	791 11 12 13 7 2 18	、外に同じる全土に返出していること。	□ 高低差あり基準未対応で非適合				
					※複数ある場合	は最も厳しい状況を記入	
		A TAURET ASTRUSIONES		生じた高	低差	mm	
		/12以下の傾斜路及び段が併設されて それぞれの有効な幅員が900mm以上で	□ 左欄をみたして適合 →	□ 傾斜路と段の	併設で対応(③に	記述)	
		は、高低差が80mm以下で勾配が1/8以下 しくは勾配が1/15以下の傾斜路が設け	□ 左欄をみたさず非適合 →	□ 傾斜路のみで	□ 傾斜路のみで対応		
	られており、	いては対能が1/13以下の傾斜路が設けかつ、その有効な幅員が1,200mm以上で			とけた傾斜路勾配	! 1/	
	あること。			 設け <i>た</i>	-傾斜路有効幅員	mm	
	@ T + 11 13				※複数ある場合	 は最も厳しい状況を記入	
		、、傾斜路の少なくとも片側に、かつ、床 さが700mmから900mmの位置に設けられて	□ 手すりを設置して適合 →	手すりの設置	口 片側	□両側	
(3)	いること。		□ 手すりの設置がなく非適合	手すりの床面からの	D高さ	mm	
エレベー ター		けられている場合にあっては、当該段が		設けた傾斜路	 有効幅員	0 mm	
ľ	(2)イの(1)か と。	ら④に掲げる基準※に適合しているこ	□ 適合→ □ 非適合	設けた段の有	効幅員	mm	
		T-18040 NI		けあげの寸法	mm		
		面が240mm以上であり、かつ、けあげの D2倍と踏面の寸法の和が550mm以上	□ 左欄①②をみたして適合 →	踏面の寸法	mm		
	650mr	n以下であること。	□ 左欄①②をみたさず非適合	※ (Iナ	あげ)x2+(踏面)=	mm	
			- 左欄②をみたして適合 →				
		込みが30mm以下であること。	□ 左欄②をみたして適合 → (段差が1段(単純段差)の場合)	蹴込みの寸法	mm		
	(2)イ	上段の通路等への食い込み部分及び最					
		IROM		最上段食い込み	ロなし	ロ あり	
	いこと	0	□ 左欄③④をみたして適合 →	最下段突出部分	ロなし	ロ あり	
	(A) I	すりが、少なくとも片側に、かつ、踏面の	□ 左欄③④をみたさず非適合	手すりの設置	口 片側	□両側	
	先端が	先端からの高さが700mmから900mmの位置に設		手すりの踏面からの	の高さ	mm	
	けられ	たていること。					
			- 場合は、以下の(4)についてもご回答くださ				
※賃借人(賃	賃貸人が当該賃貸信	注宅に居住する場合にあっては、賃借人及び <u>〔</u>	賃貸人)が共同して利用する居間、食堂、台所その 				
		登住宅にあっては、共用部分に存する便 前項に掲げる基準に適合していること。	□ 共同居住型賃貸住宅において終身建物賃賃		→ 以下の項目	を満たすこと	
	-	境に掲げる基準に過日していること。 	□ それ以外の場合 → 以下の項目は回答不	· 要 			
		前項に掲げる基準	□ 該当しない→	□ 共用部分に便	所がない		
	イ 床が段を	差のない構造であること。	□ 5mmを超える段差なく適合				
			□ 5mmを超える段差があり非適合				
	1 1000000		□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→	出入口の有効幅員		mm	
		D幅員(軽微な改造により確保できる部分 い。)が750mm以上であること。	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→	出入口の有効幅員		mm	
1	ハ 便所が特		□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→	出入口の有効幅員		mm	
	ハ便所が特	ン。)が750mm以上であること。	□ 5mmを超える段差があり非適合□ 左欄を満たして適合→□ 左欄を満たさず非適合→□ 住戸内に階の別はなく該当しない	出入口の有効幅員		mm	
	二次のいる	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合	出入口の有効幅員 □ 腰掛け式便器		mm	
	二次のいる	ご。)が750mm以上であること。 宇定寝室の存する階にあること。	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合	□腰掛け式便器	を使用		
	二次のいる器が腰掛ける	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → 	□腰掛け式便器	を使用	mm 計合は最も厳しい状況を記入	
	二次のいる器が腰掛ける	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合	□腰掛け式便器	を使用		
	二 次のいする 器が腰掛け ① 長 長さを ること	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → 	□ 腰掛け式便器長辺の内法寸法	を使用	合は最も厳しい状況を記入 mm	
	二 次のいす 器が腰掛け ① 長さこ ② 距 の 距	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。 によりであること。 によりできる部分の動力について、便器と壁性(ドアの開放により確保できる部分又は	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → 	□腰掛け式便器	を使用	合は最も厳しい状況を記入	
	二 次のいる 器が腰掛け ① 長こ ② 距離 を 軽 の 軽 の 軽 で	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → 	□ 腰掛け式便器長辺の内法寸法	を使用	合は最も厳しい状況を記入 mm	
	二 次のいる 器が腰掛け: ① 長こ ②の軽む。)が	ご。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。 は保がであること。 により確保できる部分又は はドアの開放により確保できる部分又は は改造により確保できる部分の長さを含 が500mm以上であること。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → 	□ 腰掛け式便器長辺の内法寸法	を使用	合は最も厳しい状況を記入 mm	
(4)	二 次のいる 器が腰掛け: ① 長こ ②の軽む。)が	こ。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。 に により確保できる部分又は はドアの開放により確保できる部分又は は改造により確保できる部分の長さを含	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → 	□ 腰掛け式便器長辺の内法寸法	を使用	合は最も厳しい状況を記入 mm	
(4) 便所 文 び	二 次のいする 次のいする 次の かけ で 長る ② の軽む かか	は、かであること。 ま定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 は、2(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 は、2の前方又は側方について、便器と壁様にアの開放により確保できる部分又は は、2の前方又は側方について、便器と壁様にアの開放により確保できる部分又は は、2のからの無さを含いたのの手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 からのための手すりが設けられていること。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ 左欄をみたさず非適合 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm	
便所及び	二次のかずでである。 一次では、 次では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こ。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。 に器の前方又は側方について、便器と壁性(ドアの開放により確保できる部分又はな改造により確保できる部分の長さを含が500mm以上であること。 のための手すりが設けられていること。 かに存する場合、次に掲げる基準に適合前項に掲げる基準	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階になりま適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 立機をみたさず非適合 → □ 立機をみたさず非適合 → □ 立機をみたさずま適合 → □ 設置済みで適合	□ 腰掛け式便器長辺の内法寸法	を使用 ※以下、複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm	
便所及び	二次のいす。 次腰掛 ① 長る ②の軽む 立 か 共こ で がる 浴 で がる 浴 で がる 浴 で がる 浴 で が がる がる がる がる がる がる かんして イ かんして かんして かんして かんして かんして かんして かんして かんして	は、かであること。 ま定寝室の存する階にあること。 ずれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 は、2(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 は、2の前方又は側方について、便器と壁様にアの開放により確保できる部分又は は、2の前方又は側方について、便器と壁様にアの開放により確保できる部分又は は、2のからの無さを含いたのの手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 からのための手すりが設けられていること。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ 左欄をみたさず非適合 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm	
便所及び	二次のかずでである。 一次では、 次では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こ。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上であ。 に器の前方又は側方について、便器と壁性(ドアの開放により確保できる部分又はな改造により確保できる部分の長さを含が500mm以上であること。 のための手すりが設けられていること。 かに存する場合、次に掲げる基準に適合前項に掲げる基準	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場 室がない	合は最も厳しい状況を記入 mm	
便所及び	二次では、 次腰 ① 長る ② の軽む 立 共 こ 室 で がる 浴 で と。 ① 短辺 で かいる	定。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 との前方又は側方について、便器と壁様ドアの開放により確保できる部分又は はであること。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 から00mm以上であること。 のための手すりが設けられていること。 かに存する場合、次に掲げる基準に適合 前項に掲げる基準 見模が次に掲げる基準に適合しているこ	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ 左欄をみたさず非適合 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場 室がない	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	
便所及び	二 次腰 ① 長る ② の軽む か	こ。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 とび、とびであること。 におり確保できる部分の長さを含いまな造により確保できる部分の長さを含いまり。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 かに存する場合、次に掲げる基準に適合前項に掲げる基準	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場 室がない	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	
便所及び	二 次腰 ① 長る ② の軽む か	定。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 器の前方又は側方について、便器と壁(ドアの開放により確保できる部分の長さを含が500mm以上であること。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 かに掲げる基準に適合しているこ 関係が次に掲げる基準に適合しているこ のが130cm以上(一戸建ての住宅以外の の用途に供する建築物内の住宅の浴室	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 直合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ □ 一戸建て □ 一戸建て以外 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離	を使用 ※以下、複数ある場 室がない	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	
便所及び	二 次腰 ① 長る ② の軽む か ボーン ない から で	は、120cm以上(一戸建ての住宅以外の日本には、120cm以上)であること。	 □ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 直合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ □ 一戸建て □ 一戸建て以外 □ 適合 → 	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離 □ 共用部分に浴	を使用 ※以下、複数ある場 室がない ※複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	
便所及び	 二 次腰 一 大きと 	定。)が750mm以上であること。 定寝室の存する階にあること。 がれかに掲げる基準に適合し、かつ、便式であること。 辺(軽微な改造により確保できる部分の含む。)が内法寸法で1,300mm以上である。 により確保できる部分の長さを含め、200mm以上であること。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 のための手すりが設けられていること。 かに存する場合、次に掲げる基準に適合前項に掲げる基準 に関が次に掲げる基準に適合していること。 のが130cm以上(一戸建ての住宅以外の自用途に供する建築物内の住宅の浴室のては、120cm以上)であること	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たして適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 非適合 □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 □ と欄をみたさず非適合 □ 上欄をみたさず非適合 □ 力 □ 直済みで適合 □ 上欄をみたさず非適合 □ 市建て □ 市建て以外 □ 非適合 □ 一戸建て以外 □ 一戸建て以外 □ 一戸建て以外	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離 □ 共用部分に浴	を使用 ※以下、複数ある場 室がない ※複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	
便所及び	 二器 一二次腰 一長る ②の軽む 立 共こ 浴 一本 がる 浴 一次と <li< td=""><td>は、120cm以上(一戸建ての住宅以外の日本には、120cm以上)であること。</td><td>□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 設置済みで適合 □ 左欄をみたさず非適合 □ 力 □ 該当しない→ □ 適合 → □ 非適合 → □ 非適合 →</td><td>□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離 □ 共用部分に浴</td><td>を使用 ※以下、複数ある場 室がない ※複数ある場</td><td>合は最も厳しい状況を記入 mm mm</td><td></td></li<>	は、120cm以上(一戸建ての住宅以外の日本には、120cm以上)であること。	□ 5mmを超える段差があり非適合 □ 左欄を満たさず非適合→ □ 住戸内に階の別はなく該当しない □ 階の別はあるが同一階にあり、適合 □ 同一階になく非適合 □ 適合 → □ 左欄をみたして適合 → □ 左欄をみたさず非適合 → □ 設置済みで適合 □ 左欄をみたさず非適合 □ 力 □ 該当しない→ □ 適合 → □ 非適合 → □ 非適合 →	□ 腰掛け式便器 長辺の内法寸法 便器と壁の距離 □ 共用部分に浴	を使用 ※以下、複数ある場 室がない ※複数ある場	合は最も厳しい状況を記入 mm mm	

住宅の規模	莫、構造及び設備に関する基準	対応の状況	計画数値・対処の状況補足説明等	資料番号・ 該当ページ
	ロ 浴室の出入口の段差で、20mm以下の単純段差としたもの又は浴室内外の高低差を120mm以下、また		※複数ある場合は最も厳しい状況を記え 単純段差 段差の高さ mm	
	ぎ高さを180mm以下とし、かつ、手すりを設置したもの以外に、段差のない構造であること。	□ 段差あるが左欄許容範囲内 →□ 段差があり左欄範囲を超える →	□ 手すり設置の 浴室内外の高低差 mm 場合 またぎ高さ mm	
	ハ 浴槽出入りのための手すりが設けられているこ と。	□ 設置済みで適合 □ 左欄をみたさず非適合		
	ニ 浴室の出入口の幅(開き戸にあっては建具の厚み、引き戸にあっては引き残しを勘案した通行上有効な幅員とする)が600mm以上であること。	□ 適合 □ 非適合	浴室出入口の有効幅員 mm	

		氏	名				作成者は、都道府県知事登録を行っている建築士 ます。なお、応募時の共同申請者でなくても差しま
					建築士免許の種類	登録番号	
기 클	本書領	資	格				建築士資格の種類と登録番号を明記してください
					建築士事務所の名称	登録番号	
1	り作成						建築士事務所の名称と所在地、電話番号等を明認
者	找 者	所 事務	属所	住所			
				電話			

士事務所に所属する建築士に限り 支えありません。

記してください